

# 明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2015年12月14日  
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)  
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

78号

2歳児クラスの保育参観がありました。今回は、日常の子どもの姿を知ってもらおうと、子どもたちに見つからないように窓に紙を張って小さい穴から覗いてもらいました。夫婦そろっての参加、赤ちゃんと一緒に参加したのは産休中のお母さんたち、おじいちゃんの参加もありました。大谷口児童遊園に散歩に出かけた子どもたちを公園の中にある集会場で待ち受け、子どもに見つからないよう小さい穴から必死に覗いている大人たちの後ろ姿は何とも心温まる風景です。時折、友だちとのやりとり「ヤダー」「どうしたの?」と、驚いたり笑ったり、心地よい時間が流れます。参観の後は、子どもたちの給食と同じものをクラスの担任といただきます。やさしい味の給食をいただきながら、「わが子だけでなくみんなかわいいね」と、小さい穴から共有した世界の主役たちの話に花が咲きます。繋がりがあって、また育ちの場が広がります。(H・T)

## 保育園の後援会って?

### 卒園しても つながりゆく保育園

今年の陽光保育園の運動会は、雨のために体育館で行われました。「初めての運動会もそうだったなあ」と口にしたとき、未っ子の卒園文集のことを思い出しました。在園最後の運動会の様子から書き始めてみると、我が子がいるわけでもないのに、どんぐり組(0歳児クラス)などの姿に感じたことを書き、3人の我が子が過ごした11年間に思いをさせていました。我が子以外の姿に感動している自分に気が、「共育ち」を改めて実感し、「最後の運動会ではなく、11回目の運動会と書いておこう」というニュアンスの、今思うと赤面しそうな文章だった。

実際にその後23年間、後援会として陽光保育園と関わるようになったが、その時々に見せてくれる子どもたちの姿に、在園・

卒園の父母や職員とともに喜んだり嘆いたり感動したり、時には涙を流してしまったりもありました。また、ひずんだ社会を作り出すような行政に気が付かせてくれたのも、後援会活動を通してその機会を得ること

が多かったように思います。

5年ほど前に、ある卒園父母から陽光会のことを聞いた豊島区の保育園のお母さんが、後援会を作りたいので話を聞きたいというので、お会いしました。職員や父母という関係ではなく、その時代をともに生きていく人間同士として話をすることが出来る行事があったり、問題が起きたときもみんなの問題として考える場を作りやすかったりなど、外から見た陽光会後援会の活動は、とても難しくももうらやましいもの

園舎改築の財政活動など物理的な支援活動から始まった後援会ですが、私が後援会

役員になったときには職員・在園卒園父母は、自分たちの保育園という思いが伝わってくるような父母の会・後援会の活動でした。子どもたちを真ん中に、大人たちがあ

あでもないこうでもない、こうしようああしようと思いをし出しあい実行できる豊かさは、理解・尊重・共有・信頼などのきれ

ごとをあえて口に出す必要のない「つながっている」を実感させてくれる。子どもたちの、笑顔・泣き面・怒り顔など、そのすべてが大切な「共育ち」のチャンス。大人も子どももつながりあいながら「子育てを孤立させない」「子育てのふるさと作り」、これが、後援会活動への私の変わらぬ思い

です。(陽光会後援会会長 中川 守)

## 後援会でつながる

### 秋の交流会で秋を満喫!

陽光保育園うさぎ組(4歳児クラス)の娘にとって、人生初めての登山でした。「疲れた〜」とか「足が痛い〜」と弱音を吐くのではと心配していましたが、同じ保育園の友だちや北町保育園の友だちといっしょにキャーキャー言いながら、笑顔で楽しく登山していました。頂上は眺めが最高で、「富士山が見える!」と大喜びでした。

下山してからは河原で昼食。アウトドアの解放感最高! 両保育園が協力して料理をし、みんなで楽しく食べ、河原で自由に遊びました。水切りをしたときには、大人の方が「おっしょ! 3回跳ねた!」と、はしゃいでいました(笑)。

保育園の行事に参加するのは通常のこと。この交流会は、他の保育園といっしょに楽しむこと、卒園児も参加していることが特徴です。参加する子どもたちも親たちも十分に楽しめるイベントを企画していることが素晴らしいと感じました。

(陽光保育園保護者 氷室 傑)



後援会主催「秋の交流会」は毎年、日和田山への登山と巾着田での川遊びや寄せ鍋大会。写真は日和田山頂で。大人も子どもも、みんな達成感!



後援会主催「ひまわり教室」親子リズム。お父さんやお母さん、保育士さんといっしょの「リズム」に、子どもたちの顔が輝く

### 初めて参加した春の交流会

4月、平和公園でのBBQ(バーベキュー)、初めての交流会に、どんな方たちが参加するのか、どんな雰囲気なのか、少し戸惑いはありながらも親子3人で参加しました。

BBQ 自体、あまり慣れていないこともあって、用意をあまりせずに行ってしまったのですが、保育士さんや同じクラスのお母さんたちがとても親切にしてくれました。

人見知りの私は、すぐには馴染めずにいたのですが、息子はいただいたお菓子や焼きそばを「おいしい、おいしい」と、もりもり食べていました。夫も初め尻込みしていましたが、最後にはお父さんたちと談笑、地元ネタで会話が弾んでいました。

帰り際に後援会会長さんに、「この保育園は行事に参加して楽しむ保育園だよ。たくさん参加して」と声をかけられました。卒園児も行事に参加すること。私たちもこれから、いろんな行事に参加していろんな方々と交流していきたいと思った会でした。(陽光保育園保護者 山口弘美)



毎年4月末に平和公園で行う後援会主催の「春の交流会」。新入園児から在園・卒園の子どもたち、保護者も職員もいっしょにワイワイガヤガヤと食べるバーベキューは何よりのごちそう

## ●陽光保育園●

### 親子でいっしょにあそびましょう

今年度はあと3回です。  
1月13日(水) 2月16日(火)  
3月1日(火)

\*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。詳しくは下記までお問合せください。  
☎03-3956-1068



10月はハロウィンに向けて、さまざまな小物作り。できあがった魔女の衣装でお得意のポーズ(!?)

10月に入ると、旧クラブ室も放課後ルームもハロウィンの飾り付けをし、楽しげな雰囲気になりました。ハロウィン工作と題して、絵柄が出たり消えたりする「マジックスクリーン」と「素敵な帽子」を作って楽しみました。10月最後の週は衣装作り週間とし、子どもたちが魔女や忍者、オバケなどの衣装を作り、その衣装を着てのファッションショーも行いました。花を飾った即席ランウェイを歩く子どもたちは、照れながらもうれしそうでした。

### ●板十小あいキッズ●

### ●ごあんない●

- 陽光保育園 荒馬座ミニ公演 日時 2月9日(火) 10時
- 陽光保育園卒園式 日時 3月20日(祝) 9時
- 会場はすべて陽光保育園ホールです。参加ご希望の方は、お手数ですが事前にご連絡ください。
- 北町保育園 共育講座 ただじゅん公演「親子で遊ぼう」(仮称) 日時 2月6日(土) 9時30分
- 講師 多田純也さん
- 荒馬座ミニ公演 日時 2月17日(水) 9時50分
- 北町保育園卒園式 日時 3月19日(土) 9時30分
- 会場はすべて北町保育園ホールです。参加ご希望の方は、お手数ですが事前にご連絡ください。
- 板橋第十小学校あいキッズ「今年も、ただじゅん」がやってくる(あそびと公演) 日時 12月25日(金) 14時(予定)
- あいキッズ工作フェスティバル(仮称) 日時 2月上旬(予定)
- あいキッズ卒業式(仮称) 日時 3月中旬(予定)



運動会を終え、さらにワザをみがく子どもたち。今日も竹馬の特技を披露した。

## 陽光保育園

### ●5歳児、竹馬に挑戦!●

「かもしが組になったらやるぞ」と、ずっと憧れてきた竹馬。9月のはじめに仲間と協力しながら竹馬を作ると、その日からコツコツと練習を重ねました。「やるぞ!」と目標に向かう気持ちと、うまくいかなかったも「こんどこそ!」と繰り返して挑戦する粘り強さを大切に、仲間と励まし合いながら毎日のように取り組まれました。なかなか乗れずに悔し泣きをしたとき、足や手にできた豆の痛みをこらえて乗ったりと、一人ひとりがいろいろな葛藤を乗り越えて迎えた運動会。当日はあいにくの雨で体育館での開催となりましたが、子どもたちの表情は晴れやかで、竹馬もリズムもリレーも全力で挑んでいました。



北町中学校3年生といっしょに体育館で「リズムム」。初対面の気恥ずかしさは最初だけ

## 北町保育園

### ●中学3年生と交流●

毎年運動会後に行われている、北町中学校3年生との交流も今年で4年目。家庭科の授業「幼児とのふれあい体験」としてクラスごとに3回にわたって行いました。きりん組(5歳児クラス)の好きなリズム(とんぼかえる、汽車なべなべなど)をいっしょに行いました。中学生は照れながらも少しずつ動き出してくれ、みんなで輪になったときは、全員笑顔になっていました。中学生からはクイズ大会、ゲーム大会など、5歳児が楽しめるように工夫を凝らしてくれ、きりん組の子どもたちも満足でした。中学生の優しく素直な姿にも感動しました。

# みんなあつまれ！みんなであそぼう！ 心もからだもまるごと育てる あそびの力

講師：遊びの達人 多田純也さん

「まだ来ない子もいるけれどはじめよ」の多田純也さんの声で始まった『みんなあつまれ！みんなであそぼう！心もからだもまるごと育てるあそびの力』。

まずは折り紙を使った不思議な飛び方をする物。折り方の説明を受けながらも遊びの世界にどんどん引き込まれていきます。三角形に折った折り紙が「何に見える？」の問いに「山！」などと会話しながら出来る上がった飛行物体を一齐に飛ばし始めると、その不思議な飛び方に会場が一気にもりあがりました。

次には、周りに切こみが入った丸い紙皿が登場。各々が思い思いにシールを貼った



今年の陽光保育園の共育講座は、「あそびの楽しさ、大切さを再発見しよう！」をテーマに、大人も子どももまじえての楽しいイベント。遊びの達人・多田純也さんの話術にひっぱられるように、いつのまにかみんな夢中であそんだ1時間半。写真上：まずは手あそびでウォーミングアップ。写真下：シールで飾り付けた紙皿を頭にのせてカップのリズム♪（いずれも右端が多田さん）

後、その切り込みにそって折り曲げ、カプをつけて床に置き、上から息を吹きかけると、くるくるつと風車のように思い切り回り、貼ったシールの絵柄が浮かび上がります。そして、そのお皿を頭にかぶせて、太鼓の音に合わせてリズム遊び「カップ」の登場。突然指名されたお父さんもお母さんも、保育士も子どもたちも、そして会場の中にいる誰もがカップになりきって体を動かします。

席替えを行う遊びも、参加者にタッチするコミュニケーションを取り入れながら行ってみたい、子どもを膝に乗せた親子でのふれあい遊びをしてみたり、会場が一体

**多田純也さん**  
●プロフィール●  
舞台表演家・表現インストラクター。表現あそびの「風光舎」を主宰。子どもを対象にした舞台上演と表現あそび、コミュニケーションをうながすあそびの活動を展開。陽光保育園卒園児の保護者でも。

となつて汗をかき、みんなの笑顔があふれるとても素敵な時間になりました。

「つながらを持ちながら思いきり楽しむ、遊びはルールがあるからおもしろい。一人一人が考え、ルールを変えられるのが遊びであり、心が動き、ここにこがあふれる。それが遊び」、そうおっしゃる多田さん。子どもも、昔子どもだったおとなも、参加した全員を自分の世界に引き込む多田さんの話術に感服しながら、それを体感できた大切な時間でした。

（陽光保育園職員 天野裕美子）

## 子どもの歯が抜けたヨ

10月22日。友太の「子どもの歯」が初めて抜けた記念日になりました。

しばらく前から「歯がグラグラする」と言っていて、ご飯も食べづらそうにしていたが、ようやくその日が来ました。その日は、夕食を食べていると、ご飯をかんだ拍子に歯が抜け、一緒に飲みこんでしまったようです。記念すべき歯を回収することとは、かないませんでした。本人も、子どもの歯が抜けたことを嬉しく思っているようで、鏡で何度も歯の抜けた痕をのぞきこんでいました。

生まれてから、ハイハイ、つかまり立ち、言葉を話しはじめること等、初めて出来たを積み重ねて、それを見るたびに成長を喜んできました。最近、親の知らないうち出来るが増えてきて、成長の「とき」をはっきりと目にする機会が減り、少し寂しく感じていました。今回の乳歯事件で、久しぶりに友太の成長を実感することができました。

今年から小学生になり、これまでの保育園とはまったく違う環境の中で、1学期のはじめの頃は、一時グスグス、メンメンしていて、少々心配した時期もありました。夏休み前頃から小学校にもあいキッズにも慣れて、友だちもでき、表情からかたさがとれて、「あいキッズで遊ぶのが楽しい」と言うようになりました。父親からすれば、「勉強が楽しい」とも言ってくれると頼もしいのですが、こちらは期待せずに期待することになります。

これからも、背は伸びていくのでしようが、それ以外に目に見えないところで成長していく部分が多くなっていくと思います。そんなころにも目を配り、見守って、寄り添っていきたくと思っています。

そういえば先日、抜けた歯のとなりの歯が突然抜けました。下の前歯が欠け、笑うとき2本分のスキマが目立つ最近の友太です。

（板橋第十小あいきつず1年生・友太の父 霜越利昌）

◆こんなときご利用ください  
保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など／保護者の傷病・被災・事故・出産・冠婚葬祭などの緊急時／保護者の子育て不安・リフレクシオンなど／育児相談・健康診断等で、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき など



◆利用日・利用時間など

月曜日～金曜日の9～17時（土日・祝日・年末年始休）。一日1～8時間。1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから

◆お申し込み・お問合せ  
詳しくは陽光保育園（☎395611068）まで。受付時間10～17時

## 番外編

### シリーズ 戦争と私

## 「子どもたちの幸せのために」

津田ノリ子

陽光保育園の入口正面に掲げられている写真の女性は、いつも優しい笑顔で子どもたちや私たちを迎え入れてくれます。陽光保育園の創設者である、故平沢静子先生です。平沢先生は、昭和初期、戦争に反対して教師の職を辞し、非合法活動に身を挺し、そのために思想犯として投獄され、通算11年もの獄中生活を絶え抜いた女性でした。40年余り前、まだ先生がお元気だったころ、先生の半生を個人的にお聞きする機会がありました。「生い立ちによる差別や偏見、不平等に悩み、苦しむなかで、貧困にあえぐ人々の姿が見えてきた。社会の矛盾を目の当たりにして、自立した職業人になることを決意し、家庭教師をかけもちしながら学校で学び、高等女学校の教師になった。人間はどう生きるべきか、社会はどうあるべきかを思考するなかで、マルクスとの出会いが生きる方向を示してくれた。しかし、思想、信条、表現の自由が抹殺されるファシズムの時代、活動は困難をきわめた。皆が幸せに暮らせる世の中にする、それができなければ自分の幸せはない、戦後はその思いで生きてきた」淡々と語られたその言葉に、なんてすごい人なのだろう、私の母たちと同世代なのに、何歩も前を歩む人だ、とただただ感嘆し感動したことを鮮明に覚えています。「子どもたちの幸せのために」が先生の口癖でした。どんなことがあっても平和を守り続けたい。大先輩の遺志を継いで全力を尽くすのは今です。（板橋区在住）

## 祖母が遺した言葉の重み

新村一成

あれは、いつの夏だっただろう。戦争をテーマにしたドラマを見てると、そばにいた祖母が、ぼつりと、静かな声でつぶやいた。「戦争はいやじゃ」そんな言葉を、祖母の口から聞くのは初めてだった。驚いて、僕は祖母を見た。そこにいるのは、いつもと変わらない、物腰の柔らかな、腫のやさしい祖母だった。それきり何も語らず、僕も何も尋ねなかった。祖母の娘である母から、母とその上の兄が秋田に疎開していたことや、一番上の兄が、人間魚雷「回天」で特攻するはずだったのを終戦で救われたことは、折にふれて聞いてはいた。しかし、それを祖母の口から、じかに聞いたことはない。おそらく、尋ねれば話してくれたかもしれない。でも、その時の自分には、それで十分だった。ふだん、政治など「難しい」話はしない、その祖母がぼつりと漏らしたその一言だけで。「戦争はいやじゃ」そう言った祖母が亡くなって、もう23年になる。戦後は、まだ続いているのだ。国どうしの戦争は終わっても、あの戦争に終止符を打てない人が大勢いるのだ。僕の耳の底には、「戦争はいやじゃ」という、あの夏の祖母の一言が、今もこだまし続けている。（上板橋在住／詩人、映像翻訳家）

## 国会前で強く思う

岸 鮎奈

戦争法案が強行採決された日、私は国会前にいました。国会に行った理由は、何もせず法案を通しては、亡くなった祖母たちに申し訳ないと思ったからです。終戦日には悲惨な戦争の話聞いて育ちました。他国の戦争に加担しアメリカと一体となって武力行使を行う危険性のあるこの法案を認めるわけにはいかない。将来、日本の子どもたちが命を奪い合い傷つく、そんな日本にしたいくない。そんな思いから、私はこの安保法案反対集会に参加しました。当日国会前に行ってみると、想像以上の大勢の人々が怒りの声をあげていました。それぞれの生活のなか、1時間でも2時間でも、反対の声を届けたい！ そんな思いで、何万人もの人が入れ替わり立ち替わり国会前に集まっていました。老若男女問わず、考え方も生き方もまるで違う人々が、この戦争法案だけは絶対に認めない！ その思いだけで団結する姿に深く深く感動しました。強い雨のなか、怒りの声をあげ続ける市民をないがしろにして成立した、この「戦争法」を私は決して認めません。これからも強い意思を持って声をあげていかなければならないと思います。たとえ怒りの声が政府に届かなくても、私たちの姿を今の子どもたちが見て、何かを感じてくれることを私は願っています。（陽光保育園職員）